

平成23年度 看護部目標

1. ピア・サポート体制を各病棟・外来に根付かせ、受療者にきめ細やかな支援が実践できるようにする。
 - 1) ピア・サポーターの具体的活動がわかり、ピア・サポートの会に参加できる。
 - 2) ピア・サポートを段階的に導入し、支援体制を構築する。
 - 3) スタッフ1人ひとりが、耕仁会の心身医療研究会認定資格を取得し、ピア・サポーターとして受療者を支援できるようになる。
 - 4) 自分の趣味・特技を活かし専門療法士として、職場及び入院者等に還元する。

2. スタッフ1人ひとりの医療安全管理意識を高め、事故防止を図る。
 - 1) インシデント（ヒヤリハット）レポートの提出（警鐘、問題事例の分析・再発防止策）を促進し、潜在的問題を顕在化させない。
 - 2) 各病棟・外来でKYTを実践し、予知能力を高める。
 - 3) 結果予見義務・結果回避義務を理解し、業務を遂行する。

3. 各治療期、病態に応じた適切な内観看護を実践できるようにする。
 - 1) 看護師・介護職員は、内観面接に立会、患者・家族の問題に気づき、早期解決に向けた支援が展開できる。
 - 2) 看護師・介護職員は、内観面接時の記録の補助ができる。
 - 3) 内観担当者と看護の協力体制の充実を図り、内観者を24時間継続的に支援する。

4. 教育体制を整え、看護要員の臨床実践能力向上を図る
 - 1) 新人看護職員臨床実践能力向上プログラム（看護師用、介護福祉士用、クラーク用）に沿って実践的な指導をしていく。
 - 2) 新人職員が入職時から、研究テーマ（目標）を持ち実践した結果を発表できるように支援する。
 - 3) 各病棟でテーマを決め、必ず1例は、論文発表をする。
 - 4) ピアサポーター（各認定療法士）による療法実践の効果、又は活動をまとめ論文発表する。